

THE PINHOE EGG

Chap.6~11

Chapter Six

Summary

それ以来、Joss も Mr.Farleigh を避けているようで、Home Wood から遠い場所ばかり乗馬に出かけていた。そこでも、Cat は何か欠けているような感じを受ける。Cat と Roger は遠乗り、自転車に慣れた Janet と Julia も誘うことにしたが、ちょうど出かけようとしていたところに、Jason が Chrestomanci 城に帰ってくる。城の皆は、彼を歓迎し、彼の持ってきた珍しい植物や、荷物を運んだりする作業に追われる。彼は、植物の面倒をハーブの専門家、Elijah Pinhoe に頼みたいと言うが、彼は八年前に死んでいた事がわかり、結局、Mr.McDermot に頼む。Roger は遠乗りに行けなくなって落胆したが、夕食時に Jason の土産話(重要箇所：訳参照)を聞くうちに、機嫌が直る。翌日、皆は残りの植物を植えたりと Jason の手伝いをするが、その日は Joss Callow が休みだったので、Cat と Roger は遠い丘へと出かけてゆく。

一方、Ulverscote では、Joss Callow が、Harry と Arthur に Chrestomanci 城の様子(一家の帰宅、馬、Cat との遠乗りと Farleigh との遭遇、Jason の帰還)を伝える。彼らの買った馬には、おとなしく見せる魔法がかけられていて、Joss 自身も含めだまされていたことを語った。Harry は Farleigh の件はほっておいてもいいが、Cat が馬で乗りまわっているのは、自分たちの spell できつと大丈夫だろうができるだけ止めて欲しい、また Jason にも気を配るようと言う。最後に Joss は Gammer が最近落ち着いていることをきき、Gammer にも会いに行く。(行く途中：Post Office の壁はまだ直っていない・・・) Joss が行くと、Gammer は Joe に会いたいというわがままの一点張りで、彼はそれを受け入れざるを得なくなりまた出発する。(重要箇所：訳山参照)

Cat と Roger は、いつまでたっても近づかない丘に向かっていくつもの坂を上ったり下ったりしながら苦労していた。Roger があまりにつらそうなので彼の自転車を Cat が Syracuse に魔法でつないだところ、しばらくして Syracuse が魔法を破り Cat は溝に振り落とされてしまう。そこへ、とても自転車で楽に坂を上っていく Joe 通りかかる。Roger(Joe と初対面)と Cat は彼を呼び止め、「誰にも言わない。Magic Patent Office の住所を教える。」と約束し、Joe の発明した自転車の仕組みを教えてもらう。自転車の装置には、フェレットの剥製がワイヤーでつながれて入っていた。正しいハーブ

をつかって、ライフパワーをえる仕組みらしい。そこで、Joe の使った Dwimmer という言葉が Cat の気に引っかかる。

Cat は溝からでて、Syracuse を捕まえに行き、蹄鉄が一つとれていることに気付く。蹄鉄は見つかるが、魔法でくっつけたら Joss に怒られるので、Syracus を歩かせて帰る事になる。Joe と Roger はすっかり意気投合。

Joe は、Gammer にオタマジヤクシを入れた容器をとどけに去り、去り際に、Farleigh が道に細工していたことを明かす。

Words and Phrases

Contrive	どうにか~する	Jason Yeldham had contrived, even after years of
cockney accent	ロンドンなまり	living at the Castle, to keep a strong cockney accent
get hold of	手に入れる	Nobody else can get hold of the plants.
spot	見つける	Jason was spotted in the mountain.
interfere with	邪魔する	Cat was likely to interfere with his work.
get over	~を乗り切る	They'll get over it.
keep an eye on	じっと見張る	Houw much of an eye ought I to keep on him?
alert	用心	Stay alert.
mend	直す	No one had done anything about mending the wall.
put off	(要求などを)そらす	Don't try to put me off!
regarded ~ as ~	~を~と見なす	Syracuse regards every hill as a challenge to gallop.
dawn on	~にわかり始める	It dawned on Syracuse what was going on.
recognize	認識する	Cat was too amazed to recognize Joe soon.
show off	見せびらかす	Joe was itching to show his bike off.
come up with	思いつく	I've never come up with anything this useful.
patent	特許	Magic Patent Office
peer	じっと見る	Roger was peering in at the ferret.
wander	歩きまわる	The Farleighs don't people wandering around.
guilty	罪悪感	Joe shot him a slight guilty look.

範囲全訳

“But he had done better in ----- in the care of Mr MacDermot.” 102

しかし、世界7Dでは、薬剤効果のあるクロッカスでいっぱいへのんびな谷のある世界だが、彼はもっとうまくやった。はじめ、谷を所有している老人は、クロッカスの球根と交換してもいいと思うものを何一つ考えられなかった、さらに、彼はJasonにクロッカスは歯にとても悪いと注意した。Jasonは、老人を説得し、老人とその家族のために入れ歯に魔法をかけることで鞆いっぱいのクロッカスを手に入れた。そして、彼は、世界1Aにある、すべて世界中でたった一つしかない、暗緑色のシダ、これは実際風邪を直すのだが、が生えている山のことを話した。当然、山を所有している男は、それら植物を売ることでもとても裕福であり（売っている植物は根っこを除いて、他の人が育てられないようにしていた）そして、ほかの誰にもそれをとらせないと心に固く決めていた。彼は、警備用の獣や昼、夜と山を巡回する武装した男達を持っていた。Jasonは、嚴重な呪文のもと、夜に忍び込み、見つかって命がけで逃げ出さなければいけなくなる前に数個掘り出した。警備員はJasonが世界5Cに飛ぶ前、世界2Aまで追いかけてきたが、あきらめた。今、そのうちの3つが、クレストマンシー城にあり、Mr.McDermotによって世話されていた。

“While he was wondering ----- ‘All right then,’ and went.” 108-109

彼がほかに何をいうべきか、城からのニュースを話そうか、それとも天気の話をするかと考えているうちに、Gammerは鋭くいった。「それで、今あんたはようやくここにきたんだね、行ってJoeをすぐにここにつれてきておくれ」

「Joe?」Jossが言った。「でも、私も、城のニュースを伝えることはできますよ、Gammer」

「ニュースがほしいんじゃない、Joeがほしいんだ」Gammerは主張した。「私は、あんたが知っているようにJoeがどこにいるのか知っている。それで私はここにJoeがほしいんだ。それとも、もう私のことをGammerとは呼ばないのかい?」

「もちろん、呼びますよ」Jossは言って、話題を変えようとした。「今日はちょっと曇っていますが、」「私をはぐらかすんじゃないよ、Joss Callow」Gammerが口を挟んだ。「私はあんたにここにJoeをつれてこいといったんだ。私は本気だよ。」

「だけど、結構あたたかいですね、実際サイクリングには少し暖かい。」Jossは言った。

「だれが天気のことなんて気にするんだい!」Gammerは言った、「Joeをここにつれてこいといったらう。今すぐ行って彼をつれてくるんだ、私の機嫌をとるのはやめるんだね!」

これは、かなり明白で、完全に正気だと Joss には思えた。かれは、Arthur と語らい、Charles とダーツに興じるだろう Pinhoe Arms での午後が消えてしまったという思いにため息をついた。「私に Helm St Mary まで自転車でひき返して Joe にここに来るよう伝えてほしいんですね?」「そうだ。昨日やっておくべきだったんだよ。」Gammer は言った。「私はお前達若い者がいったいどうなっているのかわからないよ。私の出す指示に反論したりして。行って Joe をつれてきなさい。ほら。私が話したがっていると伝えておくれ、それから、それをほかの誰にも言うんじゃないと。行って。さあ行きなさい。」

それは、ピンホー一族皆が感じる Gammer への畏敬の念で、Joss はもう口論も天気の話をする勇気もなかった。彼は「それでは、わかりました。」と言って行った。

Chapter Seven

Summary

Joe や Roger よりも遅く Cat は城に帰り着く。Syracuse が魔法を使われるのをいやがったので、草の上を歩いて帰ったのだ。2 人は帰り道、周りの様々な生き物や木々の香りに気付くが、一方で、そこには、そうしたものの他にも、本来は何かあるはずで、満たされているべき場所が満たされていない虚無感を彼らは感じ取る。(重要箇所：訳参照)

城につくと、Chrestomanci と Joss が待ちかまえていた。Chrestomanci は一人で馬に乗って出かけたことを怒る。Joss は Syracuse の蹄鉄が脱げたいきさつを聞いて、Syracuse を厩舎に連れ帰った。Chrestomanci は、しばらくの間、馬は Joss にまかせ、Chrestomanci がいいというまで乗ってはいけなさと Cat に言う。それから、Cat は Roger が道について何か言っていたか聞くが、Roger は最近 Chrestomanci を避けていて何も言ってないらしい。Cat は Roger や Joe をトラブルに巻き込まないよう、「Roger と Ulvescout Wood に行こうとしたが、道が常に城の方へ帰らせようとして、たどり着けなかった」と Chrestomanci に報告する。Chrestomanci は調べてみようかと答える。

Cat は Roger に Chrestomanci が怒っていることを伝えると、Roger は女の子達、特に Janet が陰険ムードであると教える。夕食の前に、城の面々があつまる待合室にいくと、なぜか Jason は居なかった。Roger は父から隠れようとするが無駄に終わる。夕食が終わるとすぐに、Roger は部屋を飛び出し、女の子達も同様に去る。Cat は Janet が気がかりで (Janet がこの世界にいるのは、Cat の姉のせいなので、責任を感じるのだ)、Playroom に行くと、彼女は泣いていた。Jason が結婚したからだという。Janet と Julia は自分が Jason と結婚するのだと決めていたらしい。相手の名前は Irene で、Janet も Julia も彼女に嫌悪感を抱く。Cat は Roger の意を理解し、部屋を出る。

Cat は Syracuse がどんどん恋しくなる。一方、Roger は、Chrestomanci を避けるためでもあるだろうが、嚴重な Don't Notice 呪文をかけた厩舎の陰で Joe とよく一緒にいて機械の話ばかりしている。

数日後、Jason が Irene をつれてやってくる。Irene は美しい女性で、城中から Irene を見ようと人が集まって来た。Janet は一目見るなり、泣きながらかけだしたが、Julia はほほえむ。Irene の登場で、Cat の心もいくらかましになった。Cat は Irene に城中を案内してまわり、彼自身の部屋もみせる。Irene は彼の塔の様な部屋に感嘆し、父が彼女のために資産を残してくれたこと、2 人の使用人 Jane James と Mr.Adams がいること、そして今、家探しをしている最中だと話す。

その後、Irene は Cat に絵のスケッチを見せてくれる。Irene はデザイナーなのだ。彼女の絵は魔法に満ちているようだった。Cat は、Irene を魔女だと思うが、Irene はそういう風に思ったことはない、ただ、絵から自然と魔法が出てくるだけだという。

次の日の朝、Cat は、Jason に新しい家を決めに行くのを手伝ってくれと言われ、ついて行くことになる。

範囲全訳

“But Syracuse was puzzled ----- which of them he wanted less to meet.” 119-120

しかし、Syracuse は、困惑していた。なぜなら、これらの匂いや景色以上の何かがあるはずだったからだ。Cat は Syracuse の意味するところを分かっていた。Cat も Syracuse も、何でもかは知らないが、何かで満ちていなければいけないはずのカントリーサイドに空虚感があったからだ。それは Cat に「距離」が不自然に失われていた Home Wood の時のことを少し思い出させた。楽しさと忙しさであふれていなければならないはずなのに、ここにはそれがなかった。だが、それでも、平和だった。彼は、静かに散歩を楽しみながら進んだ、丘を登り切って長い角を曲がるまで。そして、Chrestomanci 城が遠く次の丘にあった。

ああ、キャットは思った。歩くのはとても遅いな。夕飯を逃してしまうだろう。事実、彼らが厩舎の間についたとき、まだ、夕方の早い時間帯だった。Cat が一つの門をあけて、Syracuse を通したとき、庭は、長い金色の光でいっぱい、そして二つの長い影がそこを横切っていた。ついてないことに、その影は、Chrestomanci と Joss のものだった。彼らは、となりあわせに並んで、Cat を待ちかまえていた。ほとんど同じ背丈の男が、こうまで違うように見えるのかと言うほど 2 人の姿はちがって見えた。Chrestomanci は熊手のように細いのに対し、Joss は大きく、どっしりしていた。また、Chrestomanci が暗く陰鬱な、一方で、Joss は（怒りに）赤くなっていた。Chrestomanci は、細身で灰色の絹のシャツをきてい、Joss はいつものラフな革のジャケットに、緑のシャツだった。しかし、2 人とも、威圧的だったし、喜んでいるのとはほど遠い面持ちをしていた。Cat は、どっちにより会いたくなかったかほとんど判断できないほどだった。

Words and Phrases

Point of view	視点	From Syracuse's point of view, this was true.
be relieved	安堵する	Cat was relieved about that at first.
keep out of ~'s way	~をさける	Roger was keeping out of Chrestomanci's way.
sarcastic	皮肉な	Chrestomanci often gets sarcastic.
in disgrace	不名誉	Cat and Roger was in disgrace.
vague	ぼんやりした	Chrestomanci's vague look was on Roger.
overwhelm	圧倒・困惑させる	Sometimes loneliness overwhelmed Janet.
profile	輪郭	Irene had the pale kind of profile that-----
particular	気むずかしい	She's a very particular person.
overhear	漏れ聞く	Cat overheard Irene asking what was going on.
in the way	~という意味で	Jason was not right about that in the way he thought.

Chapter Eight

Summary

Ulverscote では、Nutcase が Marianne のいらいらの種になっている。Dad が鍵をかけて厳重に閉じこめても、一日一回は Furze Cottage から抜け出て、様々なところに出没し、まち中から人々が Nutcase を返しにくる。特に、Woods House の Charles 叔父の所には頻りにいくようだ。母さんは、ガマーのところに返すのがいいと言うが、Gammer は Marianne に宜しくと頼みつづけるので仕方なくそのまま預っている。Gammer は Marianne に毎日、デルに来るようにと言う。しかし、Marianne が行っても、Gammer は Nutcase を頼む以外は黙るか変なことを口走るかしかしないので、Marianne はこの訪問がいやになってくる。

Nutcase は、Marianne について行って Dell への道のりを覚えてしまったようで、ある日、Dell で鶏の大虐殺を繰り広げる。怒った Issac が Nutcase を彼女の所に投げよこし、もう一度 Nutcase が来たらこんどは殺してやると怒る。だが、Marianne は Nutcase を閉じこめておくことは出来なかった。Nutcase には、鍵も魔法も効かず、彼がどの方角へ行ったかを調べる簡単な呪文を使うことしかできなかった。

ある朝、Gammer への訪問から帰ってくると、Nutcase がまたも居なくなっている。呪文を試すと、どうやら Wood House へ行ったようだ。行き先が Dell でなかったことに安心するが、Marianne は自分の時間が全くないことに腹をたて、Princess Irene と彼女にふさわしい Prince を思いつくヒマがないと悩む。

Wood House に行く途中、彼女はその物語を考えようとするが、案の定、人々から Nutcase はそっちに行ったよなどと声をかけられ邪魔がはいる。Wood House につくと、家は修理され閉めきられていたので、庭をさがすが、Nutcase は見あたらない。Gaffer のハーブ園へも入るが、そこにもいない。すると温室へのドアが半開きになっていることに気付く。家の中に入ったのかもしれない。温室を通り、ホールに行くと Lester 大叔父、Edger 大叔父と他の3人を見つける。そして、その内の一人がまさに Marianne の想像する Irene 王女そのままだったのである。さらに横には彼女にぴったりの王子 (Jason) ときっとその子供と思われる人物 (Cat) までいる。彼らは、家探しをしているらしかった。(重要箇所: 訳参照) Cat は入ってきた Marianne に気付き、彼女に強い魔法を感じる。Marianne は Edger に追い返されそうになるものの、Jason 達に部屋を案内するのを手伝うことを許される。見て回る途中、家が Elijah Pinhoe のものだったと知った Jason は興奮し、Marianne に彼のハーブ花壇を見せてくれるよう頼む。ハーブ園を気に入りそこから離れようとしないうちに Jason を置いて、Irene は叔父達と他を見に、Marianne と Cat は Nutcase を探しに行く。

Cat の提案でホールに Bacon Spell (Bacon の香りでおびき寄せる) をかける。Nutcase を追って上に行く途中、Cat は Marianne に強い魔力を持っているのだから、もっと自信をもっていいと話す。

結局、2人は屋根裏までいくことになる。屋根裏はがらくたでいっぱいだったが、確かに Nutcase の居た形跡があった。Cat はそれを口実にして屋根裏を探索する。何かとても魔力の強いものがあると Cat は感じていたのだ。そして、Cat は卵の様な形の物体を見つける。Marianne の承諾をえて、持って帰ることにする。(重要箇所：訳参照)

Edger に呼ばれて2人が階下に降りると、Bacon Spell でおびき出された Nutcase が Irene に抱えられていた。Cat は、卵が気付かれないように Don't Notice Spell をかけていて、Lester は Cat が大事そうに抱えていることに気付くがクリスマスのデコレーションと勘違いして終わる。Lester は、Jason 達と明日契約を結ぶと約束し、Marianne を Furze Cottage までおくる。

範囲全訳

“Beside the princess was ----- free to think about the house.” 137-139

王女様のとなりには、金髪で明るい若い男の人がいて、そのきらきらした見た目を Marianne はすぐに好きになった。彼は、粋なブレザーと、とても洗練されて美しい、しわの寄った淡い色のズボン (Marianne に、王子様が普段着として着るだろう服だという印象をあたえるような)をはいていた。彼が、まさに彼女に与えるべきだった王子様だわ！と Marianne は思った。

彼らと一緒に男の子もいた。その子は、Joe が、嫌いな大人達と居るときにするちょっとやる気のなさそうな表情をしていた。Marianne はかれが、ちょうど Joe のように Edger 大叔父を好いてないのだと結論づけた。その子は金髪をしていたので、Marianne は彼が Irene と彼女の王子の息子に違いないと推測した。明らかに、物語は数年進んだのだ。Irene と王子は「めでたしめでたし」となった幸せな生活の真っ最中で、その生活を過ごすための家を探しているところなのだ。

Marianne はその考えにほほえみながら、彼らの方へ歩いていった。そうしていると、あの男の子が「これが正しい家だ！」といった。Irene は不安そうにその子に向き直って、「それは、ほんとに確実なの？Cat。とてもひどく荒れているわ」

Cat は確信していた。彼らはすでに二つの驚きな物件を訪れていた。一つは、じめじめしていて、もう一つは、天井が心の上に絶望のようにのしかかってくるような家だった。それから、彼らは、Irene がきっと Cat のような塔の部屋があるだろうと期待していたので、小さいお城だとして宣伝されていたものを見に行ったが、結局屋根が無かっただけだった。この家は、ええと、、、ツイードの植木鉢が突き出ているような帽子をかぶったでかい男が「おはようございます。私は Edger Pinhoe です。不動産のものです。」と大声で彼らに言ってきたとき、Cat はちょっとの間困惑した。その男は、Jason と Irene をまるで彼らが目下の者であるかのように見た。2人は、Jason のとなりですこし弱々しく見えた。そして、Jason は結構がっかりした様子だった。だが、Irene は笑って手を差し出した。

「なんて奇妙なんでしょう」彼女は言った。「私の旧姓も Pinhoe なんです。」

Edger Pinhoe は、驚きうろたえた。彼は、Irene から後ずさった。「Pinhoe? Pinhoe だと？」彼は言った。「私は出来るなら、Pinhoe にこの家を売るようにとされているんだ。」それ以降、彼は礼儀を思い出し、Irene とまるで火傷をするのではないかとおそれるように握手し、傲慢で同情的な表情を完全にけし去った。Cat はそれまでその男が何かの支配魔法を彼らに使っていたことに気付いた。いったんそれが解けると、Cat は自由に考えることが出来るようになった。

“He found it right at the end----- been interested in the thing.” 149-150

彼はそれをちょうど端っこ、自分自身が光を遮ってしまい、ほとんど何もみえないほど暗いところ、に見つけた。それは、大きくて丸く、古い蛾に食われた毛布でできた巣の上に座っていた。最初、Cat はただのフットボールだと思った。しかし、彼が、それに手を置いてみると、それは陶器で出来ているようだった。Cat はさわった瞬間、それがとても奇妙で、実に貴重であることが分かった。彼はそれを拾い上げ、(それは結構重かった) Marianne が飾り付けの入った箱の横に跪いているところまで、慎重にもぞもぞと戻っていった。

「君、これなんだか知ってる？」Cat は彼女に尋ねた。彼は、この家がハーブを扱う人の家だったことをしった時の Jason のように、密かな興奮に自分の声が震えているのに気付いた。

Marianne は金色のベルの列を床に置くのから、顔を上げた。「まァ、それまだここにあったの？なんだかはわからないわ。Gammer はいつも Gaffer のばかげた冗談の一つだって言ってたわ。彼は Gammer にそれがゾウの卵だって言ってたんですって。」

卵かもしれない、Cat は思った。わずかな光の下でかれはそれをくると回した。ひょっとすると片方がより尖っていたかもしれない。その滑らかで輝く表面は藤色で、濃い藤色のまだら模様がついていた。それは、とくにかわいくもなかった。ただただ奇妙だった。そして、彼は、自分がそれを持ってなきゃいけないのだと分かっていた。

「僕が、僕がこれもらってもいいかな？」彼はきいた。

Marianne は不確かそうだった。「ええと、たぶんそれは Gammer のよ。」Marianne は言った。「私があげるものじゃないわ。」だけど、みんなが屋根裏のことを忘れてなかったとしたら、彼女は考えた。ここにある他のものみんなと一緒に片付けられて、きっと捨てられちゃったわ。それにこの家は、ここに残されているものすべてを含めて、実際父さんのだし。それでいえば、Marianne には、がらくたの一つをあげる申し分ない権利があった。他のだれもそれをほしがらないだろうから。「ええ、いいわよ、もらっちゃって。」彼女は言った。「それに興味を示したのはあなただけよ。」

Words and Phrases

nuisance	大迷惑・いろいろな種	Nutcase was a perfect nuisance to her.
persuade	説得する	Nothing seemed to persuade Nutcase that he ----
manage to	なんとか～する	Nutcase still managed to get out of the house.
frequently	頻繁に	Most frequently Gammer just grumbled to herself.
drain	抜き取る	The best way is to drain the spirit out of them.
put up with	我慢する	Dinah put up with these grumbles of Gammer's.
slaughter	大量殺戮	The slaughter he worked there was horrific.
immune	免疫のある	Nutcase was immune to magic.
conservatory	温室	The door to the conservatory was standing ajar.
ajar	半開きで	
care for	～が好きである	Cat did not care for Great Uncle Edger.
neglect	無視	It echoed with emptiness and neglect.
prospective	予想される	They are prospective buyers.
about to	～しようとしている	He was about to come in.
sound	しっかりとした	I assure you this house is absolutely sound.
pantry	食料貯蔵庫	Marianne looked into the pantry.
humour	機嫌をとる	We have to humour him.
glow	ほてる	His face glowed.
give someone a lift	つれていく	I'll give you a lift down to Furze Cottage.

Chapter Nine

Summary

城に帰る道中、Jason と Irene は新しい家を買った興奮で Cat の抱える物体に気づかない。城に帰り着いても、城中がパニックで Cat にその物体について注意を払う人はいなかったのでキャットは一人部屋へと戻る。

Cat は物体に暖めと保護の呪文をかけ、巣のようなものを作って、引き出しの上においた。彼は、Roger にでもこの物体のことを話したかったが、皆、とてもそれどころではなかった。Crestomanci が消えたのだという。彼は、魔法の糸を張り巡らして、どこにいても彼が呼べるように、また、彼の危機が皆にわかるようにしてあるのだが、今回は、どれも発動していない。さらに彼は、洋服を置いていったと Millie は言う。

Cat はひとり、落ち着いているが、さすがに夕食の時には戻ってこなかったのが、不思議に思い始める。しかし、心配そうにしている他の面々に比べて、Cat は Chrestomanci が危険にさらされているわけではないと漠然と感じていた。

寝るときも、彼は、意識の一片を外に集中させ、彼が帰ってきたら気づけるようにしていたが、結局、Syracuse の事しかとらえられなかった。そして、真夜中、彼は不思議な夢を見る。窓の外に翼を持った不思議な生き物があらわれ、招き入れると、「あなたは私の子供をもっているわね」と言う。Cat の手に入れた物体は、やはり卵で、その生き物は満月の夜にしか自由になれない自分の代わりに育ててくれと頼んだ。暖かい砂に入れて、卵をかえらせ、食べ物と愛情をたっぷり注げと言う。Cat に感謝して、それは帰って行った。夢の中で、Cat は言われたとおりにする。

それはきっと魔法使いにおこる真実の夢のたぐいだったのだろう。朝起きて、Mary に卵を片付けられそうになるが、Cat はドラゴンの卵だからと教える。Chrestomanci はまだ見つかっておらず、みんなメインオフィスで一晩中魔法を使っていたらしい。Cat は、Chrestomanci は危険な状態にいるわけではないと Millie に伝えるようにオフィスの大人達にいったが、取り合ってもらえない。そこで、一人で Chrestomanci を探して連れ帰ろうと決意する。

Cat は Chrestomanci が居るだろうと思われたあたりに、飛んでみるが、フェンスのような障壁によって、自分の部屋へ跳ね返されてしまった。Cat は思案の末、障壁を横向きにすり抜けることに成功する。(重要箇所：訳参照)

障壁を抜けると、そこには、老人がいてベーコンと卵を焼いていた。Cat は老人に Chrestomanci のことを尋ねるが、老人は知らず、逆に昼ご飯に誘われる。Cat は応じ、その老人といろんな話、主にハーブについて話す。老人は、卵がかえったかも訊いてきた。卵がかえれば、生き物は名前と共に生まれるだろうとも教える。食べ終わり、Cat が礼を言うと、老人は、Big Man はそう遠くないところにいるだろうと告げる。彼は、Cat と話したくて隠していたのだった。去り際、Cat は老人の馬が

実は Molly という名のユニコーンだったと知る。

脇の森に入ったところの開けた土地に Cat は Chrestomanci を見つける。彼は、道を調べていて、いくら歩いても城の方へ戻ってしまう事にいらだち、無理やり森に入り込んで、出られなくなったという。Chrestomanci と Cat は力を合わせて、バリアに挑み、無事すり抜けて戻ってくる。

Chrestomanci は疲れ切っており、城の皆の歓迎もそこそこに引き上げる(たぶんお風呂)。一時間後、Cat を呼んで、金網のバリアのことを話し、それから Cat が助けてくれたことへの感謝として、Syracuse への乗馬を許す。Cat は、喜び、Syracuse の元へ行くが、喜びはしゃぎすぎた Syracuse のおかげで乗る時間は無かった。

重要箇所全訳

“The mistake has been ----- popped through the space.” 161-163

間違いは、障壁に真っ直ぐつっこんだ、つまりクレストマンシーに真っ直ぐつっこんだことだ、キヤットはそう結論づけた。そうすると、(まっすぐ行くと)投げ捨てられるように設計されていたに違いない。うん、そうだ。あれは、人を振り捨てて、追跡をもたつようにつくられたんだ。だが、今、キヤットはそこにバリアがあることを、そしてそのバリアの後ろにどうしてもクレストマンシーがいることを知っていた。つまり、バリアまで忍び寄って行って、もしかしたら横向きにすり抜けられるかもしれないということだ。それが、もし、それしか方法がないのなら、とても粗雑な作りだから、壊すこともできるだろう。そして、彼は、左利きの魔法使いであることが強みになるとかなり確信していた。あのバリアはまるで、右利きの、それも、むしろ前から、かなり頑固な(彼らのやり方に固執した、融通のきかない)人たちによって作られたように感じられる。キヤットが、賢くやれば彼らの不意をつくことが出来るだろう。

キヤットは、起きあがって、部屋をぶらりと出、螺旋階段を下りていった。バリアを作った人たちにキヤットがもう一度試そうとするのではないかと予期されると困るので、思考を意図的に曖昧とさせながら、城の中を通り、厩舎の横にでた。ここで彼には Syracuse と話に行きたいという切望で切ない一瞬があったが、Chrestomanci がなんと言おうと後からやるのだと自分に言い聞かせ、Roger と Joe が会って機会について話している小屋の方へゆっくりと歩いていった。彼らは、その時もそこにいた。Cat は Roger が「うん、だけど、もし僕たちがこれの特許をもってれば、みんな使おうとするよ。」Cat はにやりとして、かれらの Don't Notice Spell の中にこっそりにじり寄った。これで、今、彼を隠しているのは彼自身の魔法でさえないのだ。そして、Cat はもう一度自身を出発させた。

今度は、とても静かに、左側から行った。彼の強い左手を前につきだしてかまえ、弱い部分を見つけるまで、バリアに向かって漂いながらバリアを感じた。そこで、(弱い部分で)とても静かに、彼は金網のように見えるものの一部をわきへ曲げて、そのスペースからひょいっと入った。

Words and Phrases

possession	占有	Cat took his new possession over to the windows.
queer	奇妙な	Cats are queer animals.
desert	見捨てる	Syracuse was wondering why Cat had deserted Syracuse.
glare	にらみつける	Mary was glaring at the egg.
undermine	だめにする	It was undermining her.
straight away	今すぐに	Why not do it straight away?
indignant	怒って	He was truly indignant.
virtue	効力	They think the plants have no virtue.
tuck in	たらふく食べる	Tuck in and enjoy it!
hatch	孵る	Has the egg hatched yet?
plunge	突入する	Cat had to plunge into the wood to the right.

Chapter Ten

Summary

Marianne はまたもや Gammer に呼ばれる。Gammer はなぜかとても怒っていたが Marianne にはなんでかさっぱり検討がつかない。そこに Dinah 叔母が Gammer をなだめにきて、Helen 叔母が Pinhoe 生まれの Irene が Woods House を買ったことを伝えたせいで Gammer が怒っていると教えてくれる。Dinah は、Gammer が怒っても取り合わないよう、それから、Mum に頼んで Gammer の軟膏をもらうようにと言いつける。

家に帰ると、Mum は薬草を調合しているところだった。Marianne は Mum を手伝いながら、Irene のことをきき出す。Irene は 100 年前ロンドンに行った Luke Pinhoe の子孫なのだという。Luke は Gaffer になるのを拒んだため父に足を不自由にされた。しかし Luke は父の口バでロンドンへと抜けだし、魔法使いに足を治してもらう。彼は自身もまた、魔法使いである事に気づき、それで生計をたてた。彼の子孫も同様に魔法使いだったらしい。Mum によれば、Gammer が怒ったのは、Irene の方がより直系の Pinhoe だかららしい。

その日の朝、Woods House に Irene の二人の召使いが移って来る。Simeon と Charles 叔父達は、何を改装したらいいのかを聞きに行き、早くも後悔して帰ってくる。やらなくてはいけない事の量と、二人の召使いの一人 Jane James の扱いでへとへとだった。

次の日、Yeldham 夫妻は改装の相談のために Woods House にやってくる。Irene は Janet と Julia を誘った。Irene は Janet と Julia が何かの理由で彼女雄いていないことを知っていたが、二人が顔を見合わせつつも承諾してくれたのでほっとする。Cat もさそわれるが、Syracuse が待っているので断る。

その日は、町中が不可思議な不運に見舞われていた。鶏がにげたり、ネズミが出たり、違うブロックがとどいたり……。病院も不自然に混んでいて、Furze Cottage の Mum も新しい煎じ液にカビがはえ悪戦苦闘しつつ、いろんな人の傷の手当に大忙しだった。不運はどんどん広がって、人々は Joy 叔母が Gammer を呪おうとしたのが原因じゃないかとも言う。Woods House にももちろんその余波は来ていた。Nutcuseのおかげで、Charles がころび、ペンキがひっくり返し、そこに Jason と Irene まで巻き込まれてしまった。(重要箇所：訳参照)

Marianne は Nutcase を洗いに行く。Dad と Charles は今回の不運の襲来について意見を述べ合っていた。

その間、漆喰まみれの一団は Jason の車で Woods House に服を取りに戻る。道の途中 Jason は、いきなり車を止め、道ばたの茂みの中からきたない藤色の袋を見つけ出す。それは呪いの袋 (ill-wishing) だった。Jason は皆に車に留まるようにいい、袋を空中爆破させて燃やしきる。

そんなことがあった間、Cat は Joss とともに Syracuse で遠乗りに出かけていた。そしてそこでも

あの虚無感を感じる。Cat が虚無感の正体をさぐろうと意識を集中させたところへ、Mr.Farleigh があらわれる。Mr.Farleigh は Joss に Pinhoe に「止めろ」と伝えてくれ、「止め」なければ ill-chancing どころではすまないぞと脅しをかけて、去っていく。

重要箇所全訳

“Nutcase was reappeared ----- Drawn him if you like.” 184-186

Nutcase は、ちょっとして、また Woods House のホールに、まさにはしごと漆喰のバケツをもってホールを横切ろうとする Charles 叔父を転ばせるのにちょうどタイミングよく(ちょうど間に合うように)現れた。Charles 叔父は自分を守ろうとして、はしごに自分の後頭部を打ちつけ、Nutcase に漆喰のバケツを落っことした。ガラガラ、グシャッという音が Jane James と Irene をキッチンから、Janet、Julia と Jason をダイニングルームになる予定の所から呼びつけた。皆、家屋塗装工 (Charles) が漆喰の湖のなかではしごの下敷きになって倒れ、そして横にはひどく白い猫の頭がひっくり返った漆喰のバケツの下からつきでている光景をみて、同情の叫びを上げた。

Charles 叔父は、Jane James の顔を見て、ののしるのはやめたが、皆 (the world at large = 世間一般) に対して Nutcase に何をしてやりたいかを言い続けた。あとで、彼が Marianne に言ったことには、頭への打撃がそうさせていたのだという。そしてあの 2 人の女の子達 (J&J) は笑った。

「だけど、大丈夫かい？」 Jason は彼に訊いた。

「あの猫が死んでてくれてたらもっと良かったんだが」 Charles 叔父は答えた。「私はあの猫をころせなかったんだろう？」

Janet と Julia は笑いすぎないように努力しながら、失敗していたが、バケツを傾けて Nutcase を救出した。Nutcase は貧弱で、爪でひっかく動作をしていて(?)、ほとんど真っ白だった。Nutcase がじたばたすると、漆喰が皆に飛び散った。Janet は、Irene と Jason が Charles を助けに飛び込む間、Nutcase を腕の長さ分はなしてもち、顔を横に背けていた。「まゝ黒猫だったのね！」 Nutcase の下側が見えて、Julia が叫んだ。Jason の足が漆喰の中で滑った。彼は Irene の腕をつかんで自分を救おうとした。結果は、Jason が漆喰にうつぶせにぱったり倒れ、Irene が漆喰のなかに尻餅をついたのだった。Irene はただ床にすわって笑ったので、Janet の Irene への気持ちは完全に変わった。

「いい服がみなダメになってしまったな」 Charles 叔父が Marianne に言った。かれは、少しふらふらしながら、Nutcase を片腕に抱えて Furze Cottage に到着した。「魔法使い(enchanter)でさえも、不幸の呪文を避けることはできないことがしめされたただけだな。あの男 (Jason) は完全な enchanter だよ。でなければ、私は熱心な中国人さ。Gammer には彼がそうだと言うんじゃないよ。彼女は怒るだろうから。彼は、自分の顔がまだ漆喰の中にあるのに、私を立たせてくれたんだ。猫を連れて行きなさい。洗っておいで。よかったら溺れさせてやってもいいぞ。」

Words and Phrases

Latch	鍵をかける	Marianne took care to latch the gate behind her.
grease	油	She put herbs into goose grease.
cripple	(手足など)ダメにする	Luke's father crippled both Luke's legs.
potion	薬	He was dealing in potions.
confer	話し合う	Jason conferred with Pinhoe Construction Limited.
the presence of mind	平常心	Few people had the presence of mind to visit her.
do credit to	~の名誉となる	Irene did credit to the Pinhoes.
sprain	(足など)くじく	Uncle Simeon was suffering from a sprained ankle.
mould	カビ	Jars had grown fuzzy red mould.
swear	ののしる	Uncle Charles stopped swearing.
be better off	~の方が幸せ	I'll be better off if the cat was dead.
nudge	軽く突くこと	It was a nudge job.
spectacular	壮観な	They looked spectacular.
call names	悪口をいう	Jason called his car names.
nasty	不快	Someone's been very nasty here.

Chapter Eleven

Summary

Cat は、Farleigh が喋っていたことの一つがまさにあの呪いの袋なのだと確信していたのにもかかわらず、Chrestomanci に Mr.Farleigh の事を言わずにいる。彼は部屋で横になりながら、何とかそれを心の中で正当化しようと試みるが、実際、自分が Farleigh の力を怖がっているだけなのだと認める。そのとき、かすかに何かをたたく音が聞こえてくる。それはあの卵だった。音はどんどん大きくなり、中の何かはパニックしかけて、そして音がやんだ。(重要箇所：訳参照) Cat は助けようと卵の保護魔法と暖かい砂の魔法を解いたり、応援したりするが、卵にはちょっとヒビが入るのみで、生き物はどんどんパニックに陥っていくようだ。Cat も動揺し、卵を抱えて Millie に助けを求めに行く。

Millie は Irene や猫たちと一緒にいた。Millie はすぐさま、卵のヒビをゆっくり開けようとするが、卵には Stasis Spell がかかっていた。Millie は Cat と Irene にも協力してもらい、呪文を解きにかかる。呪文はとけたが、生き物が弱っていたため、三人の強さを卵に送り込み、遂に卵は孵った。黄色いくちばしとピンクの爪をもったいきもので、とても弱々しかった。そこへ Chrestomanci が駆けつける。彼はそれを Griffin だといった。(重要箇所：訳参照) 赤ちゃんグリフィンはおなかを空かせているようで鳴き続ける。誰も餌が何か知らなかったので、とりあえずミルクをあげてみるが、グリフィンはこぼしてばかりで誰もあまり上手くは出来なかった。Chrestomanci は Cat に卵を手に入れたいきさつをたずねて、自分もミルクをあげてみるが失敗におわり、睡眠の魔法をかけようと提案する。その晩、Cat はグリフィンとグリフィンの母になろうと決心しているらしい Mopsa (Millie の猫) と一緒に寝る。グリフィンは夜、Cat のベッドでトイレを済ませてしまったようで、Cat が目覚めるとベッドがぬれてしまっている。

その朝、Millie と Cat は、獣医の Mr.Vastion のところへグリフィンを連れて行く。Vastion は、グリフィンは問題なく、大きくなるのを待つだけだという。また、グリフィンは自分で自分に名前をつけること、ミンス肉と、刻んだ野菜を食べることを教えてくれる。また、診療所周辺では最近カエルの被害があるらしく、診療中にも何匹も入り込んでくる。カエルたちは、半分だけ本物だった。

沢山の人に見守られ、城のキッチンでグリフィンは朝ご飯を食べるが、どんどん食べるので、料理長の Mr.Stubbs はてんてこ舞いだった。食べ終わったグリフィンは眠くなったようで、Cat に抱えられて部屋に戻る。

重要箇所全訳

“The egg started hatching ----- there was an exhausted silence.” 193-194

その晩、卵が孵り始めた。Cat は始まったとき、本当に寝付いてはいなかった。彼は、ベッドに横になって考えていた。その晩の夕食の時、Julia が油でよごれたで灰色がかったラベンダー色の袋のことを話したのだ。Chrestomanci は何も言わなかったが、かれは非常にぼーっとしていた。Chrestomanci がぼーっとしているように見えるとき、それは彼が特に細かく注意を払っているといことをいつも意味するのだ。Cat は、Chrestomanci が Jason にすべてを訊くため、後で彼を書斎に連れて行ったのを見ても驚かなかった。Ill - Chancing (不幸のまじない) は、魔法のひどい悪用であり、結局、それらを止めるのが Chrestomanci の仕事なのである。問題は、Cat は Chrestomanci に Mr.Farleigh のことも告げるべきだと分かっていたことだ。なぜなら、彼は、あの袋が Mr.Farleigh が川辺で言っていたものの一つだとかなり確信をもっていたからだ。

彼は、なぜ自分が何も言わなかったのか理由を考えようとした。一つ良い理由は、Joss が明らかに何らかのスパイであることで、Chrestomanci に報告することで Joss のことがばれてしまうという事だ。Cat は Joss が好きだった。彼は、Joss を面倒に巻き込みたくなかった。そしてそれはとてもひどい面倒になりそうだと Cat はわかっていた。だけど、本当の理由は、Mr.Farleigh が Cat が Syracuse に乗ってそこで一言一句聞いている間に、そんな事を喋ったからだった。もし、彼が Chrestomanci を金網の障壁の後ろに閉じこめる事が出来るくらい十分に強かったのなら、彼が望むなら城の皆を厄介払いするに十分な不快でねじれた力をもっていたということだ。彼は多かれ少なかれそう言っていた。

現実には、Cat は思った。あいつをひどく怖がっているからなんだ。

Cat がかすかなノックの音を聞いたのはその時だった。

最初、彼はそれがまだ窓から来ているのかと思った。しかし、起きあがって座り、聞いていると、その音は部屋の中から聞こえてきていることがわかった。彼は、電気をパチリとつけた。十分確かなことに、大きい藤色のまだら模様の卵がウィンタースカーフの巣の中で緩やかに揺れ動いていた。中からたたいている音は次第に強くなってきていた。まるで、中にいる何かが出ようとパニックになっているようだった。そして、音がやみ、疲れ切った静寂が訪れた。

“It was much lighter than ----- who said ‘Me neither.’” 200

それは、Cat がそうあるべきだと思っていたのより、その大きさにしては軽かった。Millie の sitting ルームの戸が開いて、Chrestomanci が不安そうな顔で Jason を後ろに従えて駆け込んで来たとき、Cat は、ちょうど Millie にいったいこれは何の生き物なのか訊こうとしていたところだった。

「なにかいざこざがあったのか？」 Chrestomanci は訪ねた。

「いいや、そう言う訳じゃないわ」 Millie は言って、Cat の腕の中にいる生き物を指さした。

Chrestomanci は敷物の上の二つの半分に壊れた卵の殻から、Cat の抱えている生き物を見やった。彼は「おやおや、なんてことだ！」と言って、見ようと近づいた。彼は、指でその生き物の背中を、その柔らかいくちばしから糸のようなしっぽまで、なぞり、しっぽをつまみ上げて先についたふさを見た。それから Chrestomanci は、もう一つの側にうつり、長いピンクの爪を観察した。最後に、生き物の肩から伸びている二つのふわふわしたちいさな三角形のものの一つを広げた。「おやおや！」彼はまた言った。「これは本当にグリフィンじゃないか。これは翼だよ。ほら見てごらん。」

それらは、Cat にはあまり翼っぽく見えなかった。それには、羽はなかったし、残りと同じ淡いうぶ毛で覆われていた。でも、Cat は、Chrestomanci は知っているのだらうと思った。「何をたべるのかな？」 Cat は訊いた。

「知っていたら首をやるよ ((I'll be) blowed, if --- の慣用句)」 Chrestomanci は言って、Jason を見た。「私も知りません。」

Words and Phrases

attend	注意をはらう	Chrestomanci was attending closely.
work out	解決する、解く	He tried to work out why he had not told that.
give away	～がばれる	Chrestomanci would give Joss away.
let's face it	現実はこちらだ	Let's face it, Cat thought.
persistent	ひっきりなし	The tapping was now persistent and strong.
blunt	鈍い	It has a beak that is yellowish and blunt.
griffin	グリフィン	
have a knack with	～に特技をもつ	Irene has a knack with animals.
get the hang of	コツをつかむ	The griffin got the hang of being fed.
resigned	身を任せる	Chrestomanci looked resigned.
grunt	うめき声、不平	His voice was a kind of moan with a bit of a grunt to it.
hoax	でっちあげ	The griffin was not a hoax.
plague	被害	They've got a plague of frogs here.
shred	切る	Baby griffins eat shredded carrot.
preferably	できれば	The griffin wanted to go to sleep, preferably in Cat's arms.

That's it :D

Gud Luck on EXXAAAAMMMM!

Written and edited by Morika O.

Special thanks to the awesome writers Ayumi T., Tsubasa K.!!!